地球の支配者銀行

ロスチャイルドからモルガンまで

ジャン・ボミエ 著
黒木壽時 編訳

東洋経済新報社

編訳者紹介

1917年　ウラジオストックで生まれる.
1942年　フランスのリセを経て，早稲田大学仏文科卒業.
同　年　(社)同盟通信入社．以後同盟・共同通信政治部記者，モスクワ特派員を経て，1956年米国務省招待により「ナッシュビル・テネシアン」紙出向.
1972年　退社.
現　在　評論・執筆活動に専念．日本記者クラブ会員，日本エッセイストクラブ会員.
著　書　『大統領の決断』(勁文社)
訳　書　『武器としての食糧』(TBSブリタニカ)

地球の支配者 銀行　　定価1600円

昭和59年11月8日 発行

編訳者　黒木壽時（くろきひさとき）
発行者　高柳　弘
発行所　〒103 東京都中央区日本橋本石町1の4　東洋経済新報社
電話　編集 03(246)5661・販売 03(246)5467　振替 東京3-6518

本書の一部または全部の複写・複製・転訳載・磁気媒体への入力等を禁じます．これらの許諾については，小社(電話03-246-5634)までご照会ください.
〈検印省略〉落丁・乱丁本はお取替えいたします.
Printed in Japan　ISBN 4-492-44060-7

編訳者のことば

この五月、シカゴのコンチネンタル・イリノイ銀行（全米七位）が経営不振に陥り、米政府から二〇億ドル、また民間大手銀行から五五億ドルの緊急融資を受け、一時しのぎをした。これについで、上位のマニュファクチャーズ・ハノーバー・トラスト、さらにチェース・マンハッタン銀行の経営不振説が流された。結局は、石油産業への融資の焦げつき、また、借金大国中南米諸国への過剰融資が経営不振の直接の原因となっている。

東京の金融筋では「あくまでも個別の銀行の経営手腕に根ざすものだ」としているが、米政府ならびに民間大手銀行の前例のない救済劇は、こうした不安が連鎖的に拡大するのを防ぐためだった。

訳者が、この書を手がけたのも、時期的にもアメリカの〝金融革命〟、そして日本にも押し寄せてくる金融自由化の波を見たからである。

本書の原名は、Ces Banquiers qui nous gouvernent であって、ロスチャイルドから、ロックフェラー、モルガンに至るまでの、銀行、金融、財政の立役者たちが、国家と時の政府に深くかかわり合っている実情を、年代を追って記述し、国家を支配し、政府をコントロールし、いまなお支配し続けているのは、〝金力武器〟であることを説いている。

米ソの核アーム・レースも、資本が武器である。ソ連の金脈ともいわれる、パリにある百%ソ連資本の北欧商業銀行の実体はなにか。

スイス銀行の〝カネの壁〟が、手の届かないところにあることに業をにやす、ミッテラン仏大統領でありながら、フランス資本による多国籍企業グループが、スイスに預金することを許可し、その大部分の金(カネ)は無税で、海外のフランス関連会社の運動資金に充てさせている矛盾。

別名バーゼル・クラブと呼ばれる、スイスにある国際決済銀行（BIS）は、いまなお秘密のヴェールに包まれた完全な治外法権的存在で、絶対秘密裡に世界の財政操作を行なっている。特に、第二次大戦中は、連合国（米英仏）、枢軸国（日独伊）の銀行家、外交官が、バーゼル・クラブに仲よく同居し、互いに情報を交換した不思議な地帯でもあった。また、バーゼル・クラブの役員は、政治的にも陰の立役者であった。

当時、スイス大使館にいた横浜正金銀行（現東京銀行）の北村孝治郎氏が、アメリカとの和平工作をバーゼル・クラブの首脳の一人に依頼したという、日本の裏面外交の一面もある。

著者はまた、世界各国の銀行が〝アジア・ダラー〟の市場に殺到している実情を取り上げ、シンガポールをはじめ、香港、ジャカルタ、クアラルンプールなど、東南アジアは、地球上で最も高い成長率が期待できる地域だと指摘している。

そして日本は、世界の金融市場においては、新参のアウトサイダーではあるが、西ドイツの上位、アメリカに次ぐ、西側経済の地位を確保していると述べ、その強みは、かつての将軍に代わる、スー

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

パー・ガバメント（銀行）が日本を支配していることだという。

欧米の〝銀行パワー〟は、第二次大戦前ほどのものではないにしても、世銀（国際復興開発銀行）というマンモス機関の存在は無視できない。世銀の実態も、極めて関心を引く点である。アメリカの独走と偏見を許しているこの機関に立ち向うフランスは、途上国援助に、特別基金の創設を提案している。アルゼンチンなど膨大な債務を抱える国の問題もさることながら、債務者が、債権者と〝無理心中〟するという、連鎖反応はゆゆしき問題になって来ている。

世銀・IMF年次総会の廊下であるフランスの有力銀行の代表が、「われわれはかつては伝統的に金を借りている国の大臣に、金を借りなさいと勧めていたものだ。しかし、いまでは、そういった連中に出っ喰わさないように、身を小さくしている。しかし、出会ってしまったら、早いとこ握手だけして逃げ出すことにしている」という発言を著者は引用している。これは、何を意味するのだろう。再び返って来ない金を要求されるのはたしかに恐ろしい。しかし、もっと恐ろしいのは、こんな恐怖心が一般化したら、アジアやアフリカ、そして南米は財政的に窒息してしまう。世界経済を回転させるには、払いのいい国だけに金を貸していたら、世界経済は回転しなくなる。世銀そしてアメリカへの痛烈な非難である。

一九八四年一〇月

日本記者クラブにて

黒木　壽時

アメリカの挑戦	I.C.マガジナー, R.B.ライシュ著 中岡・塩崎・永岡訳	四六判	1900円
激動 世界の銀行	東洋経済編	四六判	1200円
怒れるアメリカ	霍見芳浩著	四六判	1200円
デンジャラス・カレンツ	レスター・C・サロー著 佐藤隆三訳	四六判	1800円
日米金融摩擦の経済学	総合研究開発機構 ブルッキングス研究所編	四六判	1300円
アメリカ神話の内側 恐竜とLSI	田村定彦著	四六判	1100円
米国経済ハンドブック	ジェトロ米州課著	B6判	1600円
アメリカ経済	丸茂明則著	四六判	1600円
アメリカの金融政策	B.M.フリードマン著 三木谷良一訳	四六判	1500円
アメリカの金融自由化	T.F.カーギル, G.G.ガルシア著 立脇・蠟山訳	四六判	1500円
アメリカの12の顔	小倉和夫著	四六判	1500円
アメリカは甦えるか	篠原三代平編	四六判	1300円
金融大革命	立脇和夫著	四六判	1500円
ソ連経済最新事情	森信茂樹著	四六判	1200円
ヨーロッパ経済の再発見	出水宏一著	四六判	1300円
中国経済入門	尾上悦三著	四六判	1700円
まちがいだらけの南北問題	宍戸寿雄・東南アジア研究会編著	四六判	1800円
中東共育のすすめ	五十嵐一著	四六判	1300円

(昭和59年8月1日現在)

◉地球の支配者 銀行／目　次

編訳者のことば　3
プロローグ——　3
第1章　ロスチャイルド家の兄弟たち——　9
ヨーロッパに散らばる五人の男爵　9
国王なみの絶大な力　11
ナチスの接収で……　13
ボンピドーとロスチャイルド　15
いよいよたどる敗北の道　17
一〇〇年遅れたアメリカ進出　19
第2章　パリバ銀行の受難——　25
内部告発で社長辞任へ　25
世銀の元アフリカ局長　28
モロッコを支援　30
反エスタブリシュメントの男　33
安値で買って、転売　35

第3章　アメリカの〝聖域〟――43

絶対逃れられなかった国有化　38
国際資本主義の牙城　43
ぞくぞく外国勢の手に　46
〝ベンチャー・キャピタル〟に人気　49
ドルをもってドルを作る　51
メリル・リンチの存在　54
海外領土狙う、アメリカ銀行　58

第4章　ウォール街の人々――63

財政とは一つの芸術　63
増加する公開買付け　65
吸収合併の仕掛人たち　68
第三世界に〝トロイカ体制〟　71
金融ジャングルのプリンス　73
D・ロックフェラーに続く者　77

第5章　シカゴ商品取引所（MERC）――81

コーナー（買占め連合）作戦　81
綿花取引所長の自殺　84

ソ連が使うダミー会社　86
市場に介入する借款グループ　89
生産国の市場制圧力　91
正体不明の〝買い手〟　94
アメリカの新しいチャレンジャーたち　95

第6章　ロンバード街の山高帽　101

苦すぎる飲み薬　101
別世界、シティ　104
市場の雄、エキスチェンジ　107
イングランド銀行のパワー　109
アルゼンチン紛争で一役　112
銀行と産業界の〝離別〟　114

第7章　チューリッヒの〝小鬼たち〟　117

銀行法第四七条　117
秘密制度廃止反対、六三%　120
スイス・フランス税関戦争　123
最大の預金者は、フランス人　126
躍起になるミッテラン大統領　129
米証券取引委も乗りだす　131

第8章　カミカゼ軍団——135
リー・クアン・ユー登場　135
バンク・オブ・チャイナ　138
中国の利益代表、〝ハラキリ〟クレジット　141
海外進出への前哨基地　144
サムライ市場、大繁昌　147
将軍に代わるスーパー・ガバメント　149

第9章　オイル・ダラーの王侯たち——153
湾岸諸国の旦那たち　153
一日の稼ぎ一億ドル　156
産油諸国、通貨市場に介入　159
開き直るアラブ人たち　162
IMF総会にアラブ代表　164
アラーの神の名のもとに　167
日立、クボタに数百万株　169
オイルパワーから経済パワーへ　171

第10章　ソ連の金脈——175
百%ソ連の資本主義銀行　175

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

西側の財政メカニズムに……　173
ユーロダラー市場の主役　180
金を売りに売りまくる　183
高い買い物をしたフランス　186
アメリカの技術、SS18に　188

第11章　国際財政の〝憲兵〟　193

世銀総裁人選の怪　193
世銀を目の仇にするレーガン　196
モブツ大統領は〝別格〟　198
援助は忠実な西側諸国へ　202
IMFの内政干渉的姿勢　204

第12章　バーゼル・クラブ　209

ドイツ賠償支払いで　209
ペル・ヤコブソンという男　212
日米和平交渉に動く　213
完全な治外法権　216
財政操作に必要な秘密保持　218
計算された〝秘密漏洩〟　220

第13章　倒産の恐怖――225
ある恐怖のシナリオ　225
リーガン長官の奇妙な楽観論　228
世界各地に連鎖反応　231
イタリア銀行社長、ナゾの自殺　234
真の実力者は誰か　237

地球の支配者　銀行

——ロスチャイルドからモルガンまで——

プロローグ

遠くはフランクフルトのロスチャイルド、ブラッセルのランバード、そしてニューヨークのモルガン、ロックフェラー一族と、世の金融資本家たちは、古来、世界数億の人々の運命の上に重くのしかかってきた。

彼らは富を蓄積し、王侯貴族たちに資本を提供し、兵を集め、戦いを挑み、城を築き、要塞の構築に手をかした。

相場には思いきって投資し、新しい産業開発には資本を投じ、その発展に寄与もしている。このようにして、当然のことながら、金融資本家たちは、経済界の隠れた指導的存在になっていった。

また、彼らはしばしば複数の外国政府を遠隔操作し、時には自ら重要な役割さえ演じ、国際的謀議の発案者にもなるなど、歴史の舞台裏の主役として、たえず見え隠れしている。

もちろん、政治家たちは、金融資本家たちのいいなりになっていたわけではない。彼らは資本家たちの傲慢で時として無礼な手口に拒否反応を示したことは、少なからずあったはずだ。

しかし、世の政治家たちは、大方の場合、自分たちの財布を締めつけたり、ふくらませたりするこ

とのできる、極めて強い力からは逃げる意思も、またその手段をも持ち合わせていないものなのである。

ただ、当然のことながら、先進諸大国における民主主義の発達に伴い、議会制度が確立したことで、金融資本家たちの手口は、秘密裏に行なわれ、かつ複雑化していった。

もちろん〝取引〟が跡を断ったわけではない。むしろそのメカニズムが、より詭弁的なものになったのである。

かつて中央権力は、ナポレオン三世とか、ルイ・フィリップ王朝の、いわゆるルネサンス時代には、財界の中枢部の人間と、直接取引することをしたが、次第にそういった機能を失っていった。その代わりに、国家管理機構の決定的ポイントに食い込む、という新しいアプローチを用いるようになったのである。

そして、いまや、金力武器戦線は、限られた数カ国にとどまらなくなった。

多国家、ユーロダラー、そしてオイル・ダラーの今日、戦後三〇年にして、銀行は世界五つの大陸に支店を設け、互いに連合政策を確立している。そして、銀行が動かす年間数兆億ドルものカネは、新しい活動、為替相場の安定そして瀕死状態の債務国には、なくてはならない支えになっている。

ここで留意したいのは、民間金融機関（銀行）と国連機関などの通貨機構の識別が厳然と確立されていることである。

バンク・オブ・アメリカのアーデン・クローセンが、会長の椅子を棄ててまで、世界銀行のナンバ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com